昭和製機 争議ニュース 5号

昭和六年七月十八日
日本労働組合總聯合
横浜一般労働組合
川島 誓三
事務所 横浜市中区高根町二丁目二八番地

燦として輝ける星光旗
昭和製機争議勝利解決す

七月四日ストライキに入って戰ひ續けること二旬、七月十七日午後四時、組合、工場主側の正式覚書交換をして、記念すべき争議の幕は引かれた。

面の争議が終始雨に祟られ續けた、工場主側の計畫的意圖の下に戰はれた事、争議團員に中年以上の人が多い事、争議開始と共に調停入った事、争議團本部がハコの眞中にあって、警察の干渉に妨げられ事の不利な条件に拘らず、争議の模を誤らず巧みな大歩戰に効果的散兵戰を布く事によって、製機争としては記録的な九十日分の解雇手当を戰ひとったことは何と云っても勝利である。だが一面、おもに頭の戰ひで、あまりにすらすら運び過ぎて物たりなかった。未だもっと火の出る様な戰ひをしてみたかった気もする。われわれはこの貴き経験を通じて今後の争議には尚一層精力的に効果的に戰ふであらう。最後迄十七名の争議團の結束が破れなかった事及び總聯合組合員一同の熱烈なる精神的肉体的物質的應援が争議の上に如何に有利に反映したかは言ふ迄もない。

解決条項は左の如くである

一、工場主は争議團に対し解雇手当として金貳千六百円也を支給す

二、工場主は争議團員に対し金壱封貳百円也を支給す

三、工場主は工場閉鎖跡仕末の際には組合員中より日給壱円七十銭を以て使用する事

四、工場再開の際は組合員を新規採用する事を恭賀す

以上

組合員外のものはみんな二十一日分の手当で首を切られて了ったぞ！

組合の指導の下に最後迄戰ったものは九十日分の手当だ。この事実は、はっきりわれわれに團結の力、闘争の力が如何に必要であるかを証拠立てる。

日本労働組合總聯合
拡大強化万歳！
昭和製機争議
勝利解決万歳！

解團式を挙げる

七月十八日正午より争議団本部にて解団式を挙げた。森本員長以下の挨拶があり、メーデー歌並に日本労働組合總聯合万歳を合唱した。終って後記念撮影があり争議団の心づくしの握飯に舌鼓を打って解散した。

一つの戰は終った。だがプロレタリアの階級としての最後迄續くのだ。俺達の解放の日まで戰ひ抜くのだ。